

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ユニバースゆず			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い療育を提供している。 個別でカリキュラムを設定している。	「自分で考え行動し、生きていく力」を身に付けるため、脳科学に基づいた専門性の高い療育を行っている。成功体験から意欲的に取り組む事を念頭に、コミュニケーションや本人の状態を把握しながらカリキュラムを設定している。	職員がスキルアップするために、より専門性の高い根拠に基づくカリキュラムの提供のため、カリキュラム研修を行う。
2	保護者ニーズと事業所の見解を共有し、課題解決のために、保護者との連携を行う。	連携を取り、保護者ニーズを抽出し最適なカリキュラムを設定する。また細かくフィードバックを行っている。	何が問題になっているか、また得意な事は何か？近しい将来像（見立て）をお伝えし、現在の最適なカリキュラムを実践していく。
3	就学前プログラムとして就学後の課題となる部分を見出し、課題解決に努めている。	集団でのカリキュラムや机上で45分程度のカリキュラムを行う。その上で課題抽出し、個別や集団で対応している。	児童と保護者に対して就学した際の状況などを細かくお伝えし、イメージを持って貰う。なるべく困りごとが減るよう、準備として取り組んでいる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会を設ける機会が少ない。	2025年2月より新事業所に移転し、広くなったことで定期的な開催ができる見込み。	保護者交流会だけでなく、勉強会も行いたい。
2	曜日の利用者数に偏りがあるために、小集団でのカリキュラムに参加する機会を安定して設けることができない。	曜日固定の場合、関わる利用者が固定されてしまう。	様々な曜日にまんべんなく、イベントを組んだり普段利用しない曜日を利用してもらうための工夫を行う。
3	保護者への非常時、災害時、避難訓練などの周知など、情報発信不足。	非常時、災害時、及び年に2度避難訓練を行っていますが、発信が不足している。	公式ラインで周知するなど、情報発信していきたい。